

# [町史編さん室] 経営計画書（総括表）

## ■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	R2 年度計画額（単位：千円）		R2 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	町史編さん事業	B	12,904	0	1	2
合 計			12,904	0	1	2

## ■特記事項

①上記の表の職員は、編さん室次長。  
 ②上記の表以外の職員として、室長は図書館長が兼務。

# 令和2年度 事業別行政経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	町史編さん室	No.	1
事業名	町史編さん事業		
総合計画の体系	基本目標	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	基本施策	1	生涯学習の推進
目的	町民の協力を得ながら、「先人の暮らし＝郷土の歴史と民俗」を調査・研究し、詳細な記録保存をして子孫に伝え残すとともに、郷土史の研究に資することを目的とする。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和10年刊行の『大口村誌』と昭和57年刊行の『大口町史』を参照しつつ、原始から戦中を序章とし、戦後から平成末に至るまでを中心とした『大口町史～現代史編～』を令和4年3月までに刊行する。</li> <li>① 本年度は、写真・図版・コラムを含む印刷製本用原稿の執筆・編集を、年度末を目途に完了させ、次年度は補足と校正を重ねて事業を完成させる。その過程で、随時、監修がチェックし、さらに編集委員会で確認して、委員会として承認したものを正式（案）とする。</li> <li>② 項目によって、写真・図版・グラフが新たに必要と判断した場合は、速やかに収集・データ作成を行うとともに、掲載予定のすべての写真・図版について、許諾申請の有無を確認して許諾を得ておく。予算措置が必要なものは、次年度に向けて予算計上の準備をしておく。</li> <li>③ 別冊資料として、個人日記を監修の指導のもと、事務局で編集する。</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 従来の自治体史は「記録を基に記述する手法」が基本であるが、編集委員会において「記憶を基にした記述」を多く掲載することで、町民の想いが込められた親しみやすい町史にしようと決められた。</li> <li>② 編集委員会委員自らの体験・思い出、委員が取材して書いた町民の経験・思い出を整理し、本文に反映させている。「記録を基に記述する項目」は一部委員と事務局で手掛けている。</li> <li>③ 編集委員会においてサブタイトルを検討し『大口町史 現代史編～町民の想いを将来に伝える～』というタイトルを作った。</li> <li>④ 昨年度までに収集した体験談・思い出、写真や統計資料を使って、印刷用原稿を編集しつつある。</li> <li>⑤ 別冊資料の個人日記は、掲載予定の日記本文（昭和12年～昭和26年）を文字データ化した。</li> <li>⑥ 町史編さん講座で、編集委員会委員が執筆中の項目について発表して、受講された方から情報や意見をいただいた。</li> <li>⑦ 印刷用原稿の編集を進める中で、補足すべき項目を明らかにしていく。</li> </ul>		
令和2年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 前年度に本編の文字原稿を完成させる目標が達成できなかったため、写真・図表・グラフを含む本編の印刷用原稿を年度末に目途に完成させる。</li> <li>② 別冊の個人日記は、掲載する昭和12年から昭和26年までの日記本文を精査し、誤字と読み間違いを修正する。併せて脚注を作成する。</li> <li>③ 自治体史として、刊行物にとどまらず、デジタルデータの活用を協議する。</li> <li>④ 町史編さん講座にとどまらず、様々な意見をいただけるような機会や手法を考え実施に向けて準備する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4月～	写真と図版を入れた印刷用原稿を事務局で編集していく。
6月～3月	編集委員会で、写真と図版を入れた印刷用原稿を項目ごとに検討し承認を得て正案にしていくことで、本編の完成に近づける。
通年	別冊の個人日記は、大半を占める日記本文（昭和12年～昭和26）の精査、脚注の作成を委託により進める。
6月～	町史印刷用データ作成業務を委託する業者を決定し、フォーマットを定めて正案となった項目から順次データの作成を進める。
6月～3月	自治体史として、刊行物にとどまらず、デジタルデータの活用を協議する。正案となった項目について、ご意見をいただける手法を検討し準備する。

## ■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	1,439	4,720	12,904
（内特定財源）		千円	0	0	0
人工	職員	人工	1	1	1
	臨時職員	人工	1	2	2
	計	人工	2	3	3

## ■令和2年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
合計		

## ■令和2年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

項目（科目等）	計画額	増減額	内容
報償費－原稿執筆 （10-5-1-7-4-2）	560	560	編集委員会委員の原稿料
委託料－資料解読整理 （10-5-1-12-9-2）	548	213	個人日記の昭和12年から昭和26年までの日記本文の文字データの精査
委託料－町史印刷用データ作成委託 （10-5-1-12-9-3）	7,409	7,409	印刷用データのフォーマットの決定と印刷用データのデザインと校正

## ■ 特記事項

町史印刷用データ作成業務委託は、令和2年度から3年にかけての2年契約とする。

## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ① 写真・図表・グラフを含む本編の印刷用原稿については、目次に基づいて、ひと通り800頁にわたり作成したが、項目によって完成度に差がある。次年度に精査して、完成に近づける。
- ② 別冊の個人日記は、掲載する日記本文を精査し脚注を作成したが、個人名が多く記載されており、個人情報の保護に鑑みて刊行を見送ることにした。ただし、戦中から戦後にかけての大口村の様子を日記の中から読み取り、本編の中で紹介をすることは予定通り行う。また、大口町の戦前から戦後にかけての貴重な資料であることから、町の資料集とするべく必要な編集作業は続けていく。
- ③ 刊行物にとどまらず、ホームページでの公開に向けて電算担当と協議をした。
- ④ コロナ禍の中で町史編さん講座を開催できず、情報提供やご意見を伺う場が持てなかった。次年度、ホームページに少しずつ原稿案をアップしご意見をいただく方法を含めて、機会や手法を考えて広くご意見をいただけるよう努める。

## ■ 評価

新型コロナウイルスの影響で、令和2年3月から6月まで監修者と直接打ち合わせることができないまま、メールのやり取りだけで原稿の編集を進めたことから、監修者と事務局の間で共通理解ができていなかった。また、編集委員会も思うように開催できなかった。結果として、編集委員会で原稿を承認していただくところまで議論が尽くせなかった。

しかし、目次に沿って、ひと通り原稿をまとめたことにより課題も明確になった。具体的には、

- ① 今回の町史のメインが現代史であるため、原始古代から近代史までの記述を簡潔にまとめた。結果として、現代史に至るまでの歴史の流れがわかりにくいものとなった。
- ② 戦後の村政・町政について詳細な記述に努めたが、他の章・節で重複する記述が多く、目次の工夫・見直しを含めた原稿の精査が必要となった。
- ③ 当初に設定した550頁をはるかに越えてしまい、精査が必要となった。
- ④ 生物、農業の項目は、監修者から「よく書けている」との評価を得ている。

結果として、目次の工夫、項目ごとの内容の充実と精査に十分な時間をかけるために、監修者から町史編さん事業の工期を1年伸ばし令和4年度末とするよう助言を受けた。新型コロナウイルスの影響があったとはいえ、時間管理、項目設定とその調整が課題となって露呈した。